いきごみ通信

第１号　2006 年 5 月 12 日
江戸川区生ごみ堆肥化実践クラブ
〒132-0033 江戸川区東小松川 3-35-13-204
電話・FAX　03-3654-9188

生ごみは土に還（かえ）す活動を広めましょう

わたしたちが毎日食べている野菜も肉も、元々は太陽の光と水と空気そして土から作られたものです。毎日台所から出る生ごみも同じです。大部分の家庭では、これを江戸川区で回収する可燃ゴミとして出して燃やしているのが現実ではないでしょうか。

わたしたちは、この家庭から出る生ごみを、リサイクルして堆肥にし、土に還そうという活動をしています。平成 13 年に江戸川区が募集した「リサイクル実践モニター」の修了者を中心に、15 年 9 月に「江戸川区生ごみ堆肥化実践クラブ」として発足しました。その後のモニター修了者も加わり、堆肥づくりの勉強と親睦を目的にした活動をしてまいりました。16 年から「えどがわエコセンター」主催の「生ごみリサイクル講習会」を当会が中心になって実施し、その講習会修了者も順次加わって、現在は 50 余名の会員で活動しています。

今年も区内各地の区民施設で、生ごみリサイクル講習会を実施しますが、１回だけの講習ではなく、３回シリーズで行い、第１回は作り方の説明と微生物のたくさん詰まった「堆肥のタネ」の配布、第２回は、実施状況の報告や質問、そして第３回は堆肥の出来上がりの確認と堆肥の利用方法の説明などを行います。この講習を修了された方には「修了証」をさしあげるとともに、希望者は当会に入会いただいています。年会費 1000 円で、ニュースや各種案内をお送りし、毎月１回の例会と様々な見学会などに参加いただけます。

江戸川区の家庭から出る可燃ごみの約５割が生ごみであるということは、区報などでよく報じられてご存知の方も多いと思います。生ごみは堆肥化すれば貴重な資源となるのに、焼却すれば二酸化炭素（CO2）を排出し、地球温暖化を加速させてしまいます。

また、江戸川区のごみ処理費用の総額は年間約 100 億円もかかっていますが、多くの区民が生ごみをリサイクルすることによって、その経費も削減できるのではないでしょうか。

気軽にできる生ごみ堆肥づくりを通じて、生ごみリサイクルの輪を広げ、省エネルギーと環境負荷の少ない生活＝循環型社会の実現に向けて、歩みを進めていきたいと思います。

江戸川区生ごみ堆肥化実践クラブ
代表　佐藤正兵

「つちかえる」君ごあいさつ

「つちかえる」というカエルはいませんが、ツチガエルというカエルはいます。このツチガエルにあやかって、「つちかえる」のマスコットにしました。このカエルの絵は、会員が画いたもので、毎号替わります。右の「環境カエル」のイラストは、会員の安藤さんの家族の方が描いたものです。講習会テキストの表紙に使用させていただきました。今後は、ホームページにも使用し、「環境を変える」わたしたちの「意気込み」を示すマスコットにしていきたいと思います。

第六葛西小学校実験菜園の活動

『畑に生ごみ堆肥を入れて野菜を育ててみたい』という私たちの思いを、第六葛西小学校が受け入れて下さったのは平成 15 年 11 月、今年は 3 回目の春を迎えました。初めは固かった土も最近はミミズがたくさん棲んでいるホクホクしたいい土になってきました。野菜も甘く美味しく育ち、生ごみ堆肥の効果を実感しています。この菜園では病害虫の駆除に農薬は使用しない事と、種から野菜を育てる事を基本に試行錯誤の野菜作りをしています。
今までに育てた野菜は人参、トマト、ナス、インゲン、オクラ、モロヘイヤ、レタス等 20 種類以上に上りますが、病害虫による大きな被害はまだありません。
今年春の菜園の様子を写真でご紹介します。

サニーレタスは大雪に耐えて葉を赤く染め、大きく育ち**ました。**

菜園全景　昨年秋に種を蒔いた冬野菜です。元肥として生ごみ堆肥と腐葉土を入れただけで追肥はしていません。手前から小松菜、赤カブ、春菊、サニーレタス、左の枯れ草はアスパラガスです。写真には写っていませんが他にもアシタバ、ニラ、茗荷等を植えています。今年の冬野菜はよく育ち何度も間引きしました。
作業日は不定期ですが、参加ご希望の方は事務局にお問い合わせください。

昨年の春に種を蒔いたアスパラガスは、夏に柔らかい葉を大きく繁らせましたが、冬はすっかり枯れてしまいました。そして今年 3 月、春の声とともに甘くて柔らかいたくさんの芽を出しました。細い芽は摘まずに残します。これから 10 年は毎年このように収穫できます。

堆肥作りの大敵ミズアブ

写真上：ミズアブの成虫　　下：幼虫

生ごみリサイクルを始めて３年の、つたない体験を述べさせていただきます。生ごみは、微生物の働きで分解して、堆肥化して行きますが、水分が過多になると微生物の働きがうまくいかなくて腐敗にすすみます。７・８・９月頃、温度が高くなると、水っぽく腐敗したところに、うようよミズアブの幼虫が湧いてきます。そこへ生ごみを、投入し続けますと、ミズアブの幼虫の餌となり、ますます増え続け、その姿を見るだけでぞっとして、夢も希望も失せてゆきます。ともかくミズアブが発生したら、ただちに土をかぶせ、空気を遮断して始末した方が良いと思います。

生ごみは土と合わせて密閉しておけば、堆肥になりますが、ミズアブを同じようにしておいても、なかなか土に戻りません。結構しぶとくミズアブの姿かたちのままでがんばっています。以上ミズアブが原因で、私はコンポストから発泡スチロールに変更しました。

（中村富久子）

ミズアブ撃退法研究

コンポスト容器に防虫ネットの中蓋

私も、コンポスト容器で堆肥作りをしていますが、ミズアブが発生して困っています。ミズアブは、ハエより少し大型のハチのような形をした昆虫で、草や野菜の腐ったものを食べて成長します。水分の多いところを好むので、そんな状況のところに成虫が産卵し、間もなく孵化して幼虫になり野菜や果物のクズを食べつくします。食べたあとはどろどろになり、堆肥どころではなくなります。堆肥作りでは、水蒸気が発生するので、コンポスト容器のふたを取ってやる必要がありますが、私は、水アブやハエの対策として、ネットを張った中蓋を作り、常時ネットをかけた状態にしていますが、それでも発生することがあります。よく見ていると、ミズアブは5ミリほどの産卵管をネットの間に差し込んで、卵を産み付けていることが分かりました。そこで、対策として、ネットを2重にして、一枚目のネットに産卵管を差し込んで産卵しても、卵が2枚目のネットに引っかかるように工夫しました。今シーズンはそれでやっていますが、今のところまだ発生を見ていません。

（佐藤正兵）

春のリサイクル講習会「楽しい生ごみ堆肥作り」ご案内

　リサイクル実践モニターの第1期からかぞえて今年は第6期。
一人でも多くの区民に堆肥作りを伝え、ごみ減量の必然性を訴えていきたいと頑張っています。
　今回からテキストも一新、コンポスト容器と発泡スチロール箱を使って、家庭から出る生ごみを堆肥にします。参加費は資料代として200円。
　作ってみてからもう一度受けてみたい、そんな講習会にしたいですね。

	第1回	第2回	第3回
タワーホール船堀 土曜コース	5月6日（土）303会議室	6月17日（土）406会議室　応接会議室	7月15日（土）307会議室　応接会議室
鹿骨区民館 平日（木曜）コース	5月11日（木） こぎく・すいせん	6月8日（木） すみれ・りんどう	7月20日（木） すみれ・りんどう
秋　グリーンパレス 平日（木曜）コース	9月 第2又は第3木曜日	10月	11月
秋　葛西区民館 土曜コース	9月 第2又は第3土曜日	10月	11月

受講者追加募集中

　講習会は、各コースとも定員30名で募集していますが、どちらも定員に満たない状態です。ぜひ、お仲間を誘ってご参加ください。講習の内容は、年々進歩しておりますので、会員の皆さんや以前受講された皆さんにとっても、新しいことがたくさんあるはずです。2回目からでもどうぞご参加ください。

伊東さんが本を執筆・出版

　当クラブの世話人で会計監査の伊東春海さんが、右写真のような本を執筆・出版されました。カバーにつけたオビに「子育て秘策・玉手箱」とあるように、昨今の心も凍る犯罪などの根底に、戦後日本の家庭の崩壊、子育ての不在を上げ、家事を手伝わせるなど子育ての見直しなどを説いておられます。
定価：2300円、当クラブでも割引で斡旋します。